



連続歴史講座

祈りと祭りの考古学



2016年11月19日(土) 13:00~
愛知県埋蔵文化財調査センター2階研修室

戦国の呪術

鈴木正貴

キーワード：供養、祈願、連帯感の醸成

戦国時代において呪術は専門の職人（陰陽師など）により行われており、それにかかわる専門書（秘伝など）も多くみられる。「戦国の呪術」はまさにこれらに記された世界を語ることが主題となるが、考古学的にこれを説明することは、その手の素養の無い筆者には残念ながら全くできない。ここでは、戦国の呪術というタイトルは無視して「戦国の祈りと祭りの考古学」というテーマに変えて説明していくことをご容赦願いたい。

一般に、生命や生活を維持するための衣食住を中心とした活動とは全くかけ離れた所作が想定されるものを、考古学の世界では「祭祀的」と理解される。道具として理解しがたい形状の物品は祭祀遺物と認識され、通常では有り得ない遺構や遺物の出土状態を祭祀遺構と解釈することが多い。

戦国時代において、よく祭祀的な遺物や遺構としてあげられるのは、仏教的器物（位牌や卒塔婆などの供養具、懸仏や持仏などの仏像、石塔、柿経、護摩札など）、呪術的器物（呪符木簡など）、形代（人形、鳥形、獅子頭、龍頭など）、完形品が破損していない状態で出土する状況（土師器皿多量廃棄遺構など）などがある。大半の事象は供養や祈願に関わるものといえるが、土師器皿多量廃棄遺構などは主従関係を強固なものとする役割を果たしたとみられ、時代を特徴付けるものと考えられることができる。

次回は2017年秋に開催予定！

お問い合わせ先



公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24
Tel. 0567-67-4163 Fax. 0567-67-3054
<http://www.maibun.com/top/>





下津宿遺跡出土土師器皿（紅白焼き分け）



清洲城下町遺跡出土折敷と箸



岩倉城遺跡出土土師器皿（大小）



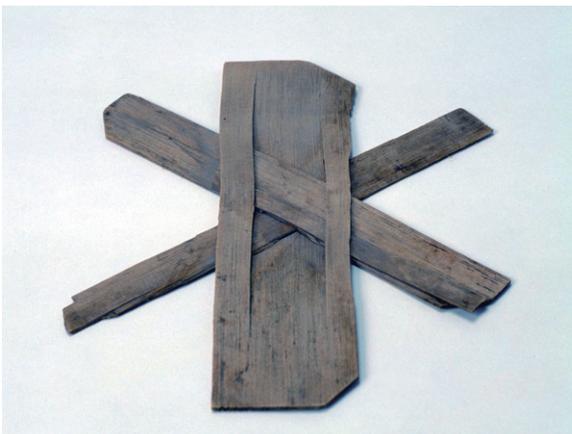
岩倉城遺跡出土獅子頭



岩倉城遺跡出土絵馬（絵牛）



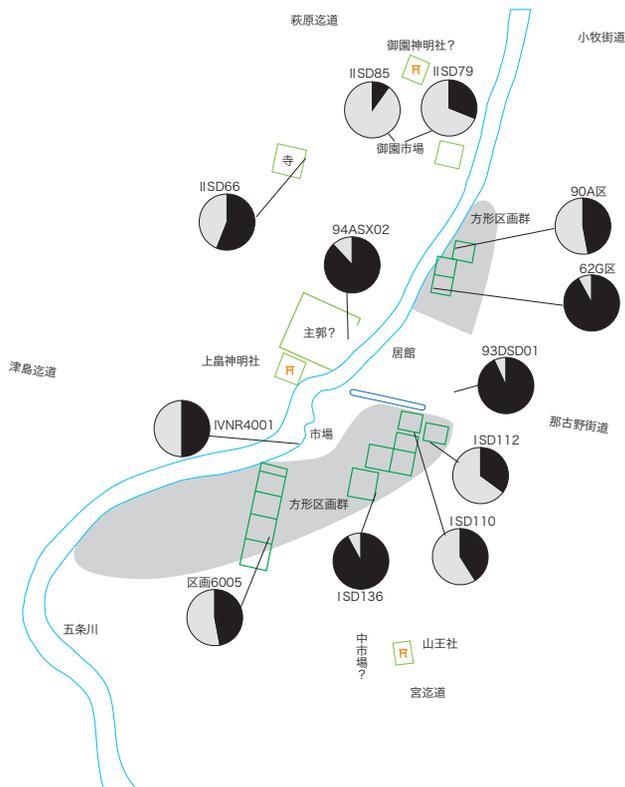
岩倉城遺跡出土絵馬（絵牛）



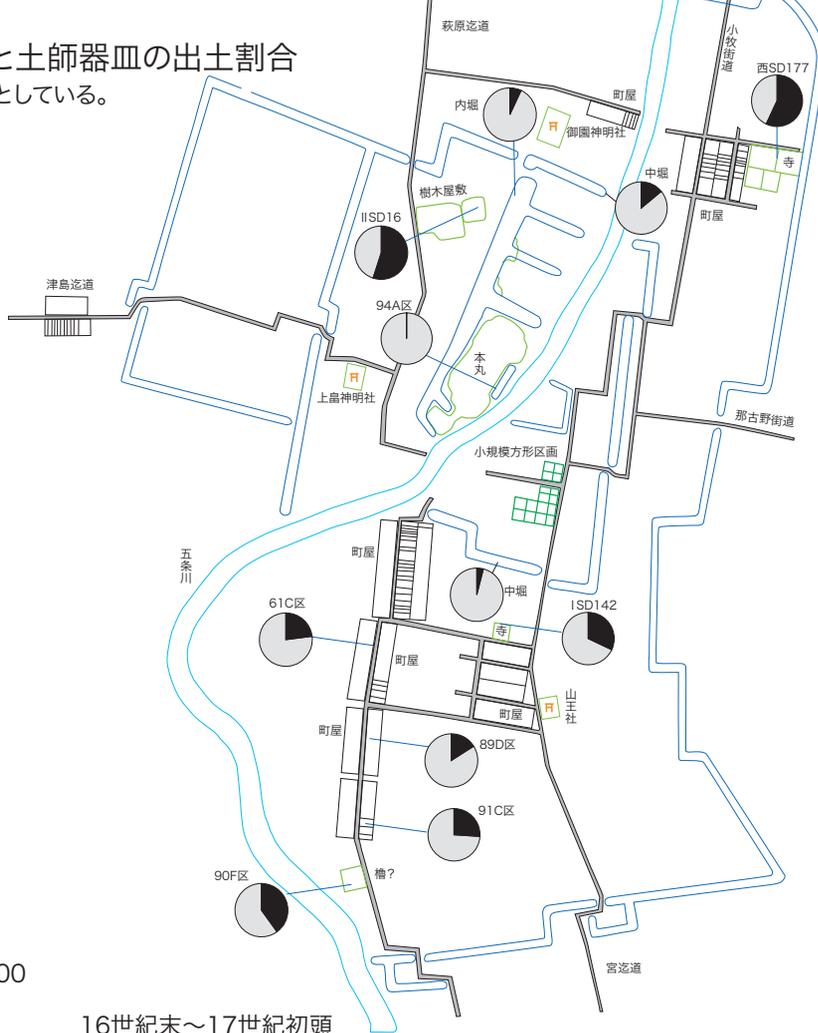
岩倉城遺跡出土折敷（変形させる）



岩倉城遺跡出土呪符木簡



15世紀後葉～16世紀前葉
I期清須城下町の復元図と土師器皿の出土割合
1995年作成復元案を下図としている。



S=1:25000

16世紀末～17世紀初頭
III期清須城下町の復元図と土師器皿の出土割合